

1. 教育方針と重点目標

学校教育目標	(1) 工業を中心とする基礎的、実践的な教育（ものづくりを中心とした体験学習）を通して、工業人としての自覚を持ち、その使命と責任を全うできる実践力のある人間を育成する。 (2) 人間としてお互いの人格を尊重し、明るく、楽しく、いじめや体罰のない、安心・安全な学校づくりを目指す。 (3) 自主活動（生徒会活動・ボランティア活動等）を通じて、自主・自立の精神を鍛え、健康の維持と体力の増進を図る。 (4) 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを目指す。
重点目標	【長期目標】 地域に根ざした工業の専門高校として、地域産業の中核を担える知識と技術と行動力を持つ人材育成に努める。 【中期的目標】 (1) 確かな技能を基に、自ら考え開発する姿勢を養う。 (2) 円滑な人間関係が築けるよう、コミュニケーション力を高める。 (3) 信頼される人材として義務と責任を果たす。 (4) 実践的知識・経験を深めるために企業連携、地域連携を進展させる。
今年度の重点目標	1 基礎学力の向上と探求的な学びの定着を図る。 ・進路意識を高め将来設計を考えさせるキャリア教育を充実させる。 2 生徒に活躍の場を与え、やる気と自信、達成感と成就感を持たせる。 ・生徒会、部活動、地域貢献をとおして自己形成を図り、コミュニケーション能力を高める。 3 すべての子どもの学びの保障を推進し、いじめ等のない明るく開かれた学校を目指す。 4 体力の向上とスポーツの振興、特に部活動の活性化を目指す。
総合評価	新学習指導要領及び観点別評価への移行、BYODの導入、新型コロナウイルス感染症への対応など、新たな学校教育活動への取り組みや、安心・安全な学校生活を送るために、職員全体で共通認識のもと、協力しながら遂行できた。また、生徒育成方針の柱である「ものづくりを通じた人づくり」に向け、授業（実習・課題研究等）やクラブ活動等で、生徒の主体的な学びを支援し、一人ひとりの成長に繋げることができた。

基礎学力と探求的な学び

2. 自己評価

(1) 教育活動領域における重点目標と評価

<評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分>

対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
教育課程	教育課程委員会	(1) 「魅力ある教育課程」の編成と実施についての研究	生徒にとって魅力があり学習欲求を成就できる教育課程	B	令和6年度に行われる選択科目導入に向けて各科目の開講講座及び時間割編成上の運用面については引き続き検討が課題である。
		(2) くくり募集の状況に対応した教育内容の検討	各科内容を生徒が深く理解した上での学科選択	B	各科内容や施設・環境を理解できるように説明会及び見学会を実施した。学科選択においては、定員が決まっているため、希望した学科を選択できない生徒がいるのが現状。
		(3) 生徒の実態や進路に対応した選択教科設定についての検討	① 生徒がスムーズに教科・科目選択するための計画 ② 生徒の進路希望に即した科目選択	A	選択科目説明会の実施前には説明資料の配布を行い、全体説明会、個人面談、三者面談を経て、丁寧かつスムーズな対応で選択科目の選定実施することができた。
学習指導	学習特活委員会	(1) 授業実践の改善促進	公開授業等をおとした授業改善の実施	B	今年度は初任者研修や2年次研修、10年経験者研修の先生方の研究授業、授業改善の方法について多くの先生方の意見を聞くことができた。また、ICT活用研修を通してClassroomやGoogleフォームなどの使い方を理解しICTの活用を進めることができた。 年3回の公開授業週を設け、他の先生方の授業を見る機会を作り、自らの授業改善への取り組みの一助とすることができたが、より多くの先生方の授業を見ていただけるように促したい。
		(2) 外部教育力の積極的活用	社会人講師等による授業実践	A	12月に1年生を対象にしたうみかプロジェクト（駒ヶ根市と連携）で、駒ヶ根市内の企業見学会を行った。また、1月にはCAP長野の講師の方々に来ていただき、ワークショップや相談方向上を目指し講演していただいた。
		(3) LHRの計画的・実践的実施の促進	円滑なLHR運営の支援	B	LHRに行事などが入ってLHRの時間を確保できていないところがあったが、今年度は若干ではあるが改善することができた。今後も他の係、委員会とも協力し時間を確保できるようにしていきたい。
		(4) 学力向上の推進	学力向上・資格取得のサポートとその評価	B	進路係とも協力して、学期の最初に行う実力テストの前に学習強化期間を設け、朝の15分間を学習の時間にあてた。結果としてはおおむね例年通りである。今後も継続していきたい。
生徒指導	生徒指導係	(1) 生徒理解に努め、積極的な生徒指導の推進を図る	① 生徒個別面談・家庭訪問 ② 係・学年を中心にした生徒指導	A	問題行動発生時は職員間の連携を素早く取ることができ、スピード感がある対応ができた。 課題：特性のある生徒への生徒指導の在り方・対応。
		(2) 基本的な生活習慣の確立により、社会道徳の育成を図る	① 通学路指導 ② 遅刻・中抜け指導	A	通学路指導を実施した。昨年度よりも学校が示している通学路を使用する生徒が多く、指導の成果が表れた。来年度も風紀委員会と連携しながら引き続き実施したい。
		(3) 自主性を育み、意欲的かつ計画的な生活の展開を図る	① 全校集会・学年集会での啓蒙 ② 「生活だより」の発行 ③ クラブ活動の活性化	B	終業式での講話はその時に起こっている話題を中心に話された。生活便りは予定通り年3回発行した。引き続き発行していく。
	(4) 交通安全指導	① 交通安全講話の実施 ② 自転車・バイク車両点検 ③ バイク安全運転技術講習会の実施 ④ 通学路交通安全指導	B	自転車点検は年2回実施した。多くの生徒がルールを守っている。 交通安全講話は駒ヶ根警察署に依頼しコロナ対策により各教室にて実施。 バイク許可者には日程を調整し講習会を実施。事故はなかったが交通違反1件。	
いじめ対策委員会	いじめに関する調査	① いじめに対するアンケートの実施 ② クラス担任との連携	A	いじめを早期発見することや生徒の実態をつかむため生活アンケートを年2回実施。大きな問題はなかったが本心を書かない生徒や未提出の生徒もいる。その後の面談は大きな課題である。	
生徒会活動	生徒会係	(1) 生徒による自治の実現 生徒会行事の計画・立案・準備・運営	① 生徒によるマナーの向上 ② 生徒の自主性を活かした行事の運営の助け	A	執行部生徒を中心に、各生徒会行事の企画・運営に積極的に取り組む姿が見られた。特に、今年度は3年ぶりとなる来場者を迎える文化祭を実施することとなったが、各展示や企画において非常に充実したものにできた。
	保健美化係	(1) ゴミの分別について理解を深めさせる	① 毎日の清掃時にゴミ収集場所において確認 ② 資源物分別の徹底	B	ゴミの分別の徹底は概ね十分にできていた。引き続きゴミの分別をする必要性を理解させ分別方法を徹底させていく。資源ゴミの分別・回収の徹底も概ねできていたが資源ごとに紐でまとめるなどをより徹底できると尚良い。
		(2) 校内外の美化	① 通常清掃・大掃除・学校作業への取り組み ② 通学路・伊那福岡駅広場の清	A	清掃は、意欲的に行い各場所が校内外がきれいに維持され、学習環境として良い。学校作業は3年ぶりに実施し、各分担当所で意欲的に作業を行っていた。通学路等の外掃は執行部中心に丁寧に行えた。
進路指導	進路係	(1) 適性の発見に導く	① 進路ノートの作成 ② 講演会・説明会の企画運営	B	① 毎年2年生の4月に進路ノートを配布し、進路指導に役立てている。 ② 5月に3年生、6月に1年生、11月に2年生が地元企業の方を招いての講演会を企画・実施した。進路への意識づけや就職への心構えの講演いただいた。6月に放課後を利用してオンラインでの企業説明会を上伊那職業安定協会と協力して行った。1月には1年生を対象に進路講演会を企画し、セイコーエプソン(株)の講師の方々に働くことや高校生活の過ごし方などについて講演していただいた。2年生は1月に就職希望者は伊那公共職業安定所主催の上伊那高校内企業説明会を実施した。進学希望者は藤さんぼうの協力のもと、進路ガイダンスを行った。2月にはTSUNAGU主催の企業勉強会へ参加した。進路実現に向けての取組をスタートすることができた。
		(2) 自己の確立に導く	① 進路通信の発行 ② 学力向上策の提示と充実 ③ 進路情報の提供 ④ 就業体験の企画運営	A	① 進路通信は定期的な発行を計画したが、思うように発行できなかった。いろいろな進路に関する情報発信をするツールとして活用できるようにしていきたい。 ② 学力向上策の一環として、学習特活委員会と連携し、実力テストへの取組を充実させ、基礎学力の向上を図ることができている。継続していきたい。また、大学進学希望者の補習を各教科の協力を得て行うことができた。その結果、国公立に1名の合格者を出すことができた。 ③ GoogleClassroomを利用して、生徒に情報発信を行うことができた。 ④ 就業体験は、本年度2年生全員の参加を試みて112名が89社で体験を行う計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響があり実施できなかった生徒もいたが、参加した生徒は多く企業の協力により、無事行うことができ、生徒にとってはとても貴重な機会とすることができた。進学者は南信工科短期大学校様に協力いただき2日研究、1日発表の合計3日間体験した。
		(3) 進路の実現に導く	① 進路情報の集積・充実 ② 面接・論文指導の充実 ③ 学校・会社見学の充実 ④ 関連部署との連携 ⑤ 新規進路先の確保	A	① 企業調べや見学の参考となるように企業ガイドブックを3年生の就職希望者と2年生全員に配布した。また、進学情報誌を購入し、学校調べ等に使用している。 ② 就職・進学ともに面接指導や履歴書・小論文などの指導をしっかりと行うことができた。就職支援員の方に面接指導をしていただき、外部の方の意見を聞くことができ、生徒には大いに参考になった。また、就職対策問題集も充実させ、就職・進学の試験に対応できるようにしている。 ③ 新型コロナウイルス感染症の影響があったが、いろいろな所でご協力いただき、オープンキャンパスや企業見学会を行うことができた。 ④ 就職については、ハローワークや上伊那職業安定協会などと協力して、企業説明会を開催するなど、連携を図りながら生徒の就職支援を行うことができた。 ⑤ 企業説明会や就業体験に新しい企業にも協力していただいた。新しく企業説明会に参加していただいた企業への就職も内定した。

その他	教育相談支援教育委員会	(1) 生徒の心のケアのための支援	① 学年会・担任・各係との連携 ② スクールカウンセラー、家庭、関係諸団体との連携 ③ 生徒の変化に気づき、チームでの情報共有、必要な支援の実施。	B	近隣市町やきりりと連携し、生徒や保護者の支援を行うことができた。チームで支援を行う為に、定期的に委員会を行うことが、次年度の課題である。
		(2) 特別支援に関する情報の提供と研修	① 支援を必要とする生徒について、全職員で情報共有。 ② 様々な会で提供される情報や資料を共有することによる、理解の深化。	A	支援を必要とする生徒の状況を全職員で共有・理解することで、生徒と関わる際の手がかりとすることができた。相談向上事業による職員研修会の機会を頂くことが出来、生徒の出すSOSをどのように受け止めれば良いか学ぶことができた。
	図書・視聴覚	(1) 図書館利用の促進	① 読書の動機づけとなるような活動（コーナーの設置・ブックトーク・広報活動） ② 利用者のリクエスト・要望への対応	A	① 毎月の図書館だよりの発行、おすすめ本コーナーの設置などを行い、貸し出しにつなげることができた。 ② 利用者からリクエストのあった本は、ほぼ提供することができた。
		(2) 放送機器の管理	放送室・体育館の機器管理	B	適切な機器の管理と運用を行うことができた。
	情報システム	(1) 高安定性の情報ネットワーク環境の提供と管理	① 県データサーバーの有効活用とセキュリティの向上 ② サーバーの強化と定期的なメンテナンス	A	① 県データサーバーの適切な運用と、情報資産の適切な管理について周知できた。 ② 県の指示に従い適切な管理が行えた。
		(2) ICT機器と生徒Gアカウントの管理	① ICT機器の整備・管理と有効活用の検討 ② 生徒用Gアカウントの適切な管理	B	① ICT機器の適切な管理や整備を進めたが、加配職員や用途（学校業務）別PCの不足があった。 ② 校務支援システムの適切な運用ができた。
		(3) 校務支援システムの立ち上げと運用	① 校務システムの円滑な導入と業務の効率化 ② 校務支援システムの管理と運用	A	① 校務支援システムで今年度から実施される観点別評価について適切に対応できた。 ② 校務支援システムの適切な運用ができた。
	人権平和係	人権感覚を持ち、平和を希求する生徒の育成	① 全校生徒対象の人権・平和教育を企画及び実施 ② 教科、学年、HRにおいて、人権平和教育の実施	A	映画「聲の形」を全校で鑑賞し、いじめの発生や、いじめの転移などいじめの内容を通して人権について深く考えることができた。 学年ごとで人権に関する講座などを実施し、人権意識を深めることができた。
	広報・学検係	(1) 中学校訪問、入試説明会・体験入学・オープンキャンパス・保護者説明会などを企画し、志願生徒の確保のために本校の教育内容や魅力などの情報発信を行う	① 本校の教育内容や魅力を広く伝えるための活動 ② 中学校、中学生、中学生の保護者などへの本校の教育内容や魅力などの情報発信	B	今年度はコロナの影響を受けながらも、計画した行事をすべて行うことができた。ただ、それが直接志願生徒の増加につながっていないので、もっと効果的な方法を模索する必要がある。
		(2) (1)を行うために必要な広報資料作成や整備	① 本校の教育活動や魅力などを伝えるために必要な資料の準備・作成 ② わかりやすく魅力ある資料作成	B	(1)と同様、魅力ある資料作成を研究していく必要がある。
(3) ホームページの定期的な更新と適切な情報公開による、効果的な活用の促進		① 定期的なTopicsの更新及び学校の取り組み状況の発信 ② 掲載内容の整理及び適切な情報の掲載	B	掲載内容の整理や更新はある程度進んだが、更に整備を進めていく必要がある。	
(4) 前期・後期の入学選抜業務の円滑かつ厳正な企画・運営		入学選抜業務の円滑かつ厳正な企画及び運営	B	コロナ対策に振り回されながらも、円滑な運営ができるよう努力を続けている。	
学科選択委員会	学科選択実施に関する企画	① 学科選択に関わる準備 ② 生徒・保護者への説明	B	① 次年度は学科説明会を行事予定に入れるようにした。 ② 学科決定までの手順など特に問題となるようなことはなく、生徒からの不満もなかった。	
高校再編準備係	高校再編に向けて本校の将来構想の検討と再編実施懇話会への対応	① 上伊那総合技術高校再編実施計画事務局会議への出席対応 ② 上伊那総合技術高校再編実施計画懇話会への対応 ③ 再編に関する校内意見のとりまとめ	A	① 事務局に9回出席し、意見交換することができた。 ② 再編懇話会に6回出席し、会の運営を行うことができた。 ③ 校内係会を26回開催し、事務局・懇話会・校内への対応を協議することができた。	

(2) 学校運営領域における重点目標と評価

<評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分>

対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
地域との連携	学校評議員運営委員会	地域に根差し、開かれた学校づくりを目指した学校評議員会の開催	① 年2回以上の開催	B	本年度は、第1回学校評議員運営委員会を校内で実施、第2回は書面開催とした。学校の様子をお知らせするとともに、意見交換を行った。学校自己評価の外部評価をして頂いた。
			② 意見要望の反映		
保護者との連携	PTA係	(1) 学校と家庭との緊密な連絡・連携	① 学年・学級PTAの重視と充実 ② PTA会報の発行、メール配信システムの有効活用	A	① 3学年PTAはクラス毎に分かれ映像配信にて、1学年PTAはZoomにて、2学年は秋に對面にて実施できた。② 会報は2号発行。書面決議や連絡でメール配信を利用。
		(2) 会員の交流、親睦及び研修	スポーツ交流会・駒工祭PTA展	B	新型コロナウイルス感染症を避けるため中止とした。来年度に期待。
		(3) 教育環境の整備	PTA作業の実施	B	一度延期し、秋に中止の決定をした。来年度に期待。
安全管理	防災係/教頭	(1) 地震防災計画の策定	防災訓練の実施	A	天気にも恵まれ、計画通り実施できた。
		(2) 消防・防災器具の管理	消防防災器具の定期的な点検		
		(3) 安全管理	① 全職員によるマニュアルの確認 ② 緊急連絡網の整備		
健康管理	保健美化係	(1) 保健教育	保健学習 ・ 科目保健における学習 ・ 保健だよりの発行(保健委員会) ・ 外部講師による講演会（性教育・薬物乱用防止教育）	A	「保健教育」実施。授業中・放課後の保健教育の実施 ・ 保健指導を兼ねた「保健だよりの発行」 ・ 1年「性教育」助産師・2年「薬物乱用防止教育」緊急要による外部講師をお招きし講演会を実施した。
		(2) 保健管理	① 心と体の健康管理 ・ 健康診断の実施と事後指導 ・ 健康相談(学校医、他外部機関との連携) ・ 感染症及びその他の疾病予防 ② 対物管理 ・ 学校環境の把握と整備	B	・ 定期健康診断の実施とその事後措置を計画に行うことができた ・ 必要時には学校医へ相談等で連携をとった ・ コロナ感染対策他その他の疾病予防に努めた
	学校衛生委員会	(1) 健康診断受診について	人間ドック・定期健康診断の受診を職員への呼びかける	C	・ 受診の呼びかけは強いているが、対象者全員100%の受診は難しい(呼びかけの仕方に問題があるのか)
		(2) 職員の職場環境の把握	① 調査実施 ② 調査結果の評価	B	・ 学校安全衛生委員会による点検を夏休み中に実施した 大きな問題点はなかった
		(3) 職員健康管理・疾病予防	疾病予防、健康の保持増進についての支援	B	・ コロナ予防、インフルエンザ予防等のためのワクチン接種の呼びかけを行った
研修	各係・委員会	教員研修の充実	校内外の教員研修への積極的な参加	A	センター研修(指定・選択)及び専門分野の研修に参加し、スキルアップに繋げることができた。 校内でのICT活用研修や、究明救急(AED)講習など実施できた。
その他	ICT活用研修委員会	(1) ICT機器の授業への積極的活用	① オンライン学習に対応するために、授業におけるICT機器の積極的な活用 ② Googleサービス、ロイノート等の積極的な活用	A	専攻の授業においても、ICT機器を取り入れた学習の割合が増えてきている。各種調査等、Googleサービスのアンケート機能を利用して実施している。Google以外にもオンライン学習に便利なサービスがあるので、委員会においても引き続き検討をすすめていきたい。
		(2) 職員の研修	① 定期的な研修の実施、職員の意識向上	A	職員全員がclassroomを用いての資料等の配布、meetを使って配信ができるようになることを目標に実施し多数の職員の参加ができた。実際の授業を受ける側に職員がなり、生徒にどのように見えるか確認できればさらによかった。個々の実践の中で必要な研修を計画したい。
		(3) 校内ネットワーク環境の安定	① 校内ネットワークの維持 ② 機器導入、また導入後のスムーズな運用	A	ネットワークが安定的に利用できるよう、維持管理を行っている。新しい機器が導入される際は、あらかじめ運用に向けたスケジュールを組み、ネットワークが安定的に利用できるようすすめていく。
		(4) セキュリティおよびリスク情報の提供	① システムチェックの奨励 ② 随時提供	B	職員一人一人のセキュリティに対する意識向上を高め、データの管理など、リスクについて情報共有を定期的にはかっている。